

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムガイドライン2016 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)八事紅葉園計画 新築工事	階数	地上10F
建設地	名古屋市瑞穂区弥富町紅葉園42番1、42番2、43番1、43番3	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	104 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年7月 予定	評価の実施日	2025年8月19日
敷地面積	1,728 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	403 m <sup>2</sup>	確認日	2025年9月3日
延床面積	2,728 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.1** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 89%

③上記+②以外のオンサイト手法 89%

④上記+オフサイト手法 89%

92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 3

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	高い外皮性能と省エネルギー性で快適な室内環境の住まいである。また樹木の配置や自然素材を活かした建材を使用し、季節や時間の変化を感じながらゆったりと過ごせる住まいを目指している。	特になし。
<b>Q1 室内環境</b>	日本住宅性能表示5-1断熱など性能等級4を超える計画とし、省エネルギーで快適な室内環境を形成する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 既存樹の利用や緑化を施す事で、温熱環境の配慮と生育環境の保全・創出に寄与する。
<b>LR1 エネルギー</b>	適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めるとともに、高効率の設備を採用し建築物の環境負荷低減を図る。	<b>LR3 敷地外環境</b> 附置義務を満たした適切な量の駐車場と駐輪場を設置して交通負荷の抑制に努めている。
<b>Q2 サービス性能</b>	更新必要間隔の長い建材を採用する事で、永くより良い状態で建築物を使い続けられ機能的側面に寄与する。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	非構造材料にリサイクル材の使用をする事で、非再生性資源の使用量削減に努め、環境負荷削減へ貢献する。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 重点項目スコア・結果シート

(仮称)八事紅葉園計画 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>4.2</b>
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>3.2</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.6</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

## 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 4.2
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 3.2
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 3.6

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。